

2月18日 大湫町の三浦さんが 竹ぼうきを寄付してくださいました

大湫町にお住いの三浦順三さんが、本日、瑞浪北中学校に竹ぼうき 10 本と熊手 2 本をを寄付してくださいました。来校された三浦さんから、生徒を代表して生徒会長の中根惟王君と、環境委員長の眞鍋晃君が竹ぼうきを受け取りました。

三浦さんは市内の三つの中学校全てに竹ぼうきを寄付してくださいましたとのこと。3校分を合わせると 30 本になるそうです。全て自分で作られたそうです。

いただく側からすると「ありがたい」の一言で済ませがちですが、瑞浪市在住の三浦さんが、地域のために何ができるかを自分で考え、自分で実践に移してみえることは、瑞浪北中が目指している「主体性」の手本です。決まっていることを、決まっている時間に取り組むことにまだ弱さがある北中生には、こういう地域の方の姿から学んでほしいものです。

もう一つ学んでほしいことがあります。竹ぼうきづくりという文化の尊さです。

今でこそホームセンターに行けば竹ぼうきは売っています。ホームセンターの竹ぼうきはどことなく丈夫さに欠ける感じがします。雑巾でもそうですよね。売っている雑巾はペラペラで、水の吸収量も少ないものばかりです。家庭のタオルで作った雑巾は、厚みがあり丈夫で長持ちします。

三浦さんの竹ぼうきは違います。一本仕上げるまでに原材料の調達や加工、組み立てまでにかかる時間を合わせると、一か月程度かかる

そうです。これだけ聞いても、丈夫で長持ちしそうです。

そういう竹ぼうきを作ることができる三浦さんの技術は、とても貴重です。これが伝承されていけばよいのですが、地域に若者が少なくなりつつある現代、地域文化に対する興味が薄れつつある現代では、それはなかなか難しいことでしょう。

だからこそ、「ありがたい」の一言で済ませるのではなく、せめて手作りの竹ぼうきの素晴らしさを、北中生に理解してもらいたいと思います。

